

ペタッと貼って 問題を見える化

浜松でSDGs出前授業

国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）を学ぶ朝日新聞の出前授業が24日、浜松市北区の聖隷クリストファー高校でオンライン形式で行われ、1年生159人が参加した。SDGsの基本知識の講義のほか、新聞を使った学習に役立つ副教材「ペタッとSDGs新聞学習ふせん」（以下「ペタッと」）と名付けられた付箋を使い、新たな視点や問題点を探し出すワークショップ（WS）も行われた。

講師は朝日新聞東京本社のNIE担当・遊佐美恵子さんが務め、SDGsの掲げる17の目標（ゴール）やそこに到達するためにしなければならない行動、問題点などを共に考えた。

WSで使われた「ペタッと」は付箋の上半分にSDGsの17のゴールがカラフルにあしらわれ、下半分が白地。新聞を手元に置いて気になる記事に関連するゴールの付箋を選び、白地部分に自分の考えを書いて見出し部分に貼っていく。一つの記事にも複数のゴールが関係し、意見も様々な方向からの視点があることを複数の付箋が貼られることで可視化できる。

イスラエル軍によるパレスチナ自治区ガザ地区への空爆の記事を取り上げた笹山蓮



授業ではSDGsとの関連で興味を持った記事に適合する「ゴール」の付箋（ふせん）を貼り、自分の意見も書いて問題点などを可視化した＝浜松市北区三方原町

君(15)はゴールの一つ「住み続けられるまちづくりを」などとの関連を考えた。「意見を書いて新聞に貼ることで問題や自分の考えがはっきりし、更に疑問も浮かび上がり、問題に対する理解が深まった気がする」と話した。講座を担当した金原由貴教諭は「SDGsのゴールを自分たちの日常に引きつけ、身近な問題とすることで今自分に出来ることは何かなどを考える機会になり、いいWSになりました」と話した。

「ペタッと」は1部550円（税込み）。学校向けに販売しており、10部以上から受け付け（送料無料）。申し込みは朝日新聞NIEサイト（<https://www.asahi.com/corporate/nie>）から。（菅尾保）